

# スペイン

Spain

	2014年	2015年	2016年
①人口:4,653万人(2017年)			
②面積:50万5,973km <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP:2万6,609米ドル (2016年)			
④実質GDP成長率(%)	1.4	3.2	3.2
⑤消費者物価上昇率(%)	△0.2	△0.5	△0.2
⑥失業率(%)	24.4	22.1	19.6
⑦貿易収支(100万ユーロ)	△24,975	△24,978	△18,754
⑧経常収支(100万ユーロ)	11,244	14,725	21,476
⑨外貨準備高(100万米ドル)	39,494	44,378	52,666
⑩対外債務残高(グロス) (100万ユーロ)	1,738,969	1,819,308	1,868,105
⑪為替レート(1米ドルにつき、 ユーロ、期中平均)	0.7537	0.9017	0.9040

〔注〕⑦:国際収支ベース(財のみ)  
〔出所〕①②④~⑥:スペイン国家統計局(INE)、③⑨⑩:IMF、⑦⑧⑩:スペイン銀行

2016年のスペインの実質GDP成長率は、内・外需のバランスの取れた成長により前年同様3.2%の好調な伸びを示した。貿易は、輸出が6年連続過去最高を記録する好調ぶり、輸入は2015年より低い水準に留まった原油安の恩恵で前年から減少し、貿易赤字が大幅に縮小した。直接投資は、世界的な資金流動性の拡大や企業の再編加速で対内・対外共に大幅に増加した。対日経済関係では、双方向で自動車部品製造分野での投資が活発だったほか、さまざまな業種で特定の第三国に留まらないグローバルな連携が育ちつつある。

## ■内・外需両輪で力強く成長

2016年の実質GDP成長率は3.2%と前年同様好調な伸びを維持した。欧州中央銀行(ECB)の金融緩和による低金利、個人所得税減税や2015年より低い水準に留まった原油安のデフレ効果による可処分所得の押し上げを理由に、個人消費や設備投資が引き続き堅調であった。観光・輸出も好調で、雇用の回復が力強く回復した。2017年第1四半期の実質GDP成長率も前年同期比3.0%と勢いを維持した。政府は同年の成長見通しを3.0%と予測している。

## ■輸出はEU向けが好調で6年連続過去最高

2016年の輸出は前年比1.9%増の2,545億3,000万ユーロと6年連続で過去最高を更新した。品目別にみると、主力の資本財(構成比20.3%)は、輸送機器が産業用車両や軍用機を中心に15.3%増と好調だったことにより3.2%増となった。鉄道機器も5.1%増と堅調であった。同輸出先1位のサウジアラビアのハラマイン高速鉄道向

けの鉄道車両メーカータルゴ製車両納入が本格化したことに加えて、鉄道車両メーカーCAFによるチリのサンティアゴ地下鉄やフィンランドのヘルシンキ地下鉄への車両納入が相次いだ。自動車(17.7%)は5.6%増加し、輸出全体の伸びに1.0%ポイント寄与した。同8割を占めるEU向けが牽引した。輸出台数は前年比7.0%増の243万2,401台であった。食料品(16.9%)も6.0%増と好調で、豚肉とオリーブ油がいずれも約2割増となった。豚肉は輸出先2位の中国向けが2年連続で倍増、またオリーブ油は2位の米国向けがバルク需要拡大で1.7倍となった。消費財(10.1%)は、4割を占める衣料がファストファッション大手の海外販売好調により8.4%増と引き続き大きく伸びた。一方、中間財(10.0%)は鉄鋼が11.1%減となったことにより、2.3%減となった。

国・地域別の輸出では、EU向け(構成比66.3%)が前年比4.3%増で、ユーロ圏向け(51.8%)ではドイツとイタリアが牽引した。非ユーロ圏では英国向け(7.5%)が自動車や航空機を中心に5.1%増と依然堅調で、英国のEU離脱(ブレグジット)決定やポンド安進行による影響は特に見られていない。EU域外向けは2.5%減と低調で、特に中南米向け(3.8%)がブラジルの不景気を反映し12.9%減、また中東向け(3.3%)もサウジアラビアの景気減速で建材や機械、家具などの輸出が減少し5.7%減となった。アジア大洋州向け(6.4%)は1.4%の微増。同地域の最大輸出先の中国向けは豚肉やワイン、オリーブ油といった食料品が48.0%増となったほか、衣類などの消費財、銅鉱の増加で初めて50億ユーロを超えた。

表1 スペインの需要項目別実質GDP成長率

	2015年	2016年				2017年	
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q1
実質GDP成長率	3.2	3.2	3.4	3.4	3.2	3.0	3.0
民間最終消費支出	2.9	3.2	3.6	3.4	3.0	3.0	2.5
政府最終消費支出	2.0	0.8	1.7	0.7	0.8	0.0	0.1
国内総固定資本形成	6.0	3.1	4.3	3.4	2.6	2.2	3.8
財貨・サービスの輸出	4.9	4.4	3.8	6.5	2.9	4.4	8.4
財貨・サービスの輸入	5.6	3.3	4.5	5.4	1.0	2.3	6.4

〔注〕四半期の伸び率は前年同期比(季節調整済み)。

〔出所〕スペイン国家統計局(INE)

## ■輸入は原油安でマイナスに

2016年の輸入は前年比0.5%減の2,732億8,400万ユーロ、また貿易赤字は187億5,400億ユーロで前年比24.9%減と大幅に縮小した。2015年より低い水準に留まった原油安の傾向が続き、貿易赤字の主要因である鉱物・エネルギー（構成比10.8%）が23.1%減となったことによる。資本財（22.0%）は活発な設備投資を背景に、産業機械、航空機部品、電気機器を中心に6.6%増となった。自動車（13.6%）も3.7%増と堅調で、うち半分弱を占める乗用車は12.3%増と急増した。消費財（12.8%）は7.0%増となり、牽引役はファストファッション最大手インディテックスの縫製国からの再輸出用を含む衣料の輸入で、初めて150億ユーロを超えた。

国・地域別では、EU（構成比57.0%）から1.0%増となった。ドイツやイタリアからの乗用車の輸入が牽引した。非ユーロ圏（11.3%）ではポーランドからのエンジンなど自動車部品輸入が牽引し、5.2%増となった。一方、英国は主に原油輸入の減少で11.9%減の大幅減となった。ロシア、アフリカ、中南米、中東が軒並み前年減であったのは、資源価格低下により原油や天然ガスの主要調達先からの輸入額が大幅に減少したことが大きい。ただし、数量ベースでは高い水準を維持している。EU域外最大の輸入相手国の中国からは、2大品目の携帯電話とパソコンが、スペイン国内における販売減速から伸び悩み、全体で0.8%増の微増に留まった。

表2 スペインの主要品目別輸出入

(単位:100万ユーロ、%)

	輸出				輸入			
	2015年		2016年		2015年		2016年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
資本財(自動車を除く)	49,981	51,593	20.3	3.2	56,425	60,148	22.0	6.6
自動車	42,740	45,137	17.7	5.6	35,970	37,293	13.6	3.7
食料品	40,617	43,050	16.9	6.0	31,221	32,187	11.8	3.1
化学品	36,031	36,010	14.1	△0.1	43,714	42,530	15.6	△2.7
消費財	23,720	25,703	10.1	8.4	32,793	35,078	12.8	7.0
中間財	26,116	25,510	10.0	△2.3	18,828	18,766	6.9	△0.3
鉱物・エネルギー	12,609	13,326	5.2	5.7	38,443	29,563	10.8	△23.1
原材料	5,529	5,623	2.2	1.7	9,203	8,772	3.2	△4.7
耐久消費財	4,012	4,366	1.7	8.8	7,168	7,712	2.8	7.6
合計(その他を含む)	249,794	254,530	100.0	1.9	274,772	273,284	100.0	△0.5

〔注〕EU域外貿易は通関ベース(輸出はFOB、輸入はCIF)、EU域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。

〔出所〕スペイン税関

表3 スペインの主要国・地域別輸出入

(単位:100万ユーロ、%)

	輸出				輸入			
	2015年		2016年		2015年		2016年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
EU	161,719	168,669	66.3	4.3	154,271	155,867	57.0	1.0
ユーロ圏	125,934	131,791	51.8	4.7	122,820	124,862	45.7	1.7
フランス	38,650	38,501	15.1	△0.4	30,063	30,371	11.1	1.0
ドイツ	27,096	28,737	11.3	6.1	36,046	36,838	13.5	2.2
イタリア	18,586	20,298	8.0	9.2	17,221	18,059	6.6	4.9
ポルトガル	17,872	18,189	7.1	1.8	10,880	10,608	3.9	△2.5
非ユーロ圏	33,392	36,878	14.5	10.4	29,478	31,005	11.3	5.2
英国	18,220	19,153	7.5	5.1	12,691	11,184	4.1	△11.9
ポーランド	4,743	4,832	1.9	1.9	4,478	5,027	1.8	12.2
トルコ	5,066	5,179	2.0	2.2	4,740	5,095	1.9	7.5
ロシア	1,670	1,603	0.6	△4.0	3,355	3,131	1.1	△6.7
北米(NAFTA)	17,140	16,915	6.6	△1.3	17,214	17,644	6.5	2.5
米国	11,504	11,328	4.5	△1.5	12,828	13,016	4.8	1.5
メキシコ	4,264	4,100	1.6	△3.9	3,404	3,326	1.2	△2.3
アフリカ	16,182	16,281	6.4	0.6	23,914	20,024	7.3	△16.3
モロッコ	6,131	6,934	2.7	13.1	4,833	5,675	2.1	17.4
アルジェリア	3,270	3,009	1.2	△8.0	6,506	4,525	1.7	△30.4
アジア大洋州	16,001	16,220	6.4	1.4	40,932	42,252	15.5	3.2
中国	4,384	5,032	2.0	14.8	23,665	23,851	8.7	0.8
ASEAN	2,942	2,901	1.1	△1.4	6,746	7,070	2.6	4.8
日本	2,470	2,406	0.9	△2.6	3,221	3,639	1.3	13.0
韓国	1,852	1,627	0.6	△12.1	2,295	2,290	0.8	△0.2
オーストラリア	1,498	1,357	0.5	△9.4	482	478	0.2	△1.0
インド	1,262	1,259	0.5	△0.2	3,100	3,463	1.3	11.7
中南米	11,100	9,669	3.8	△12.9	11,589	10,657	3.9	△8.0
ブラジル	2,729	2,245	0.9	△17.7	3,103	2,969	1.1	△4.3
チリ	1,370	1,388	0.5	1.3	1,407	1,396	0.5	△0.8
中東	8,853	8,351	3.3	△5.7	7,016	6,965	2.5	△0.7
湾岸協力会議(GCC)諸国	6,196	5,362	2.1	△13.5	4,854	3,993	1.5	△17.7
サウジアラビア	3,098	2,364	0.9	△23.7	3,404	3,001	1.1	△11.8
合計(その他を含む)	249,794	254,530	100.0	1.9	274,772	273,284	100.0	△0.5

〔注〕①アジア大洋州はASEAN+6(日本、中国、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、インド)に香港・台湾を加えた合計値。

②EU域外貿易は通関ベース(輸出はFOB、輸入はCIF)、EU域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。

〔出所〕スペイン税関

## ■中国企業からのM&Aが活発に

スペイン経済・産業・競争力省によると、対内直接投資(届け出ベース、ネット、フロー)は、前年比38.3%増の264億1,800万ユーロとなった。業種別では電力・ガス・水道・環境が前年から3.8倍に伸び、全体の3分の1強を占めた。同分野での最大案件は、2016年6月に発表

(2017年4月完了)された風力発電設備大手ガメサとドイツのシーメンスの風力発電設備事業の合併である。経営統合にあたり、シーメンスの出資比率59%に相当する60億ユーロ近くがスペインに置かれた持株会社に移管されたとされる。これに先立つ4月、アクシオナの風力発電設備事業部門もドイツのノルデックスに統合され、洋上風力分野における巨額の研究開発投資の必要性や陸上風力での競争激化から、欧州の風力発電設備メーカーの集約が進んでいる。また、エネルギー大手ガスナトゥラル SDGの株式20%を米国のインフラ投資会社GIPが38億ユーロで取得(2016年9月)したほか、前年からの再生可能エネルギー再編の流れで、太陽光発電大手Tソーラーを米国のインフラ投資会社が1億1,200万ユーロで買収(2016年12月)した。2017年以降も、世界的な資金流動性の拡大からファンド主導のエネルギー投資が進展するとみられている。

国・地域別では、EUからの投資が前年比49.4%増と大きく伸びた。特にドイツから10.6倍と急増したことによる。上述の風力発電設備メーカーの統合以外でも、2017年1月に入り、ヘルスケア大手フレゼニウス・ヘリオスが民間病院運営最大手IDCサルード・ホールディングを57億6,000万ユーロで買収完了しており、大型案件が続いている。また、欧州展開の足がかりを求める中国からの投資も好調で、グロス(迂回投資含む)では2015年より2年連続で10億ユーロを超えた。最大案件は、廃棄物発電の中国天楹による環境サービス大手ウルバセルを買収(2016年12月)である。同社はインフラ建設最大手ACS傘下で欧州・中南米など広域で事業を展開している。買収額は約12~14億ユーロとされる。また、2016年6月に水産大手の上海開創遠洋漁業が、25カ国に輸出する老舗の高級水産缶詰製造アルボを買収した。同年9月にはエンジニアリング大手の蘇交科集団(JSTI)が40カ国で展開する同業エプティサの株式90%を買収した。「一帯一路」構想を視野に入れた買収と位置付けられる。国際インフラ入札で強い競争力を持つスペインの建設・エンジニアリング企業は、新興国からの買収の標的になっている。建設大手FCCもメキシコの実業家カルロス・スリム氏が株式公開買

表4 スペインの主要国・地域別対内・対外直接投資<届け出ベース、ネット、フロー>

(単位:100万ユーロ、%)

	対内直接投資			対外直接投資		
	2015年	2016年		2015年	2016年	
	金額	金額	伸び率	金額	金額	伸び率
EU	14,112	21,077	49.4	4,254	17,177	303.8
ユーロ圏	13,743	20,550	49.5	257	5,905	2194.8
ドイツ	668	7,112	964.8	762	1,208	58.5
ルクセンブルク	4,581	6,465	41.1	△331	1,824	-
オランダ	4,577	4,898	7.0	△1,740	1,826	-
フランス	1,779	1,036	△41.8	745	261	△64.9
非ユーロ圏	369	526	42.5	3,997	11,272	182.0
英国	144	433	199.6	3,781	8,796	132.6
アジア大洋州	906	1,986	119.2	△683	367	-
香港	277	856	209.2	△931	18	-
ASEAN	185	556	200.3	20	13	△35.3
日本	388	474	22.4	10	0	△100.0
中国	14	139	922.6	236	108	△54.2
北米(NAFTA)	1,926	1,845	△4.2	10,774	9,400	△12.8
メキシコ	1,125	1,880	67.2	2,086	1,137	△45.5
カナダ	189	207	9.2	9,032	242	△97.3
米国	611	△243	-	△343	8,021	-
中南米	1,272	895	△29.6	3,558	4,286	20.4
チリ	10	151	1411.4	0	5	-
中東	239	52	△78.4	52	20	△62.2
湾岸協力会議(GCC)諸国	201	77	△61.6	40	20	△50.4
サウジアラビア	23	45	97.2	18	△0	-
アフリカ	28	44	58.6	276	51	△81.7
合計(その他含む)	19,099	26,418	38.3	18,443	30,264	64.1

[出所] スペイン経済・産業・競争力省

表5 スペインの業種別対内・対外直接投資<届け出ベース、ネット、フロー>

(単位:100万ユーロ、%)

	対内直接投資			対外直接投資		
	2015年	2016年		2015年	2016年	
	金額	金額	伸び率	金額	金額	伸び率
電力・ガス・水道・環境	2,318	8,898	283.8	743	739	△0.6
金融・銀行・保険	1,279	7,246	466.7	3,171	5,848	84.4
建設	4,247	2,857	△32.7	1,181	2,137	81.0
製造業	3,196	1,965	△38.5	1,183	7,463	530.8
機械・自動車およびその他	1,132	1,723	52.3	1,746	6,844	291.9
食品	1,094	282	△74.2	△240	269	-
繊維・衣類	182	137	△24.8	△48	△35	-
製紙・出版	130	103	△20.5	△150	144	-
石油精製・化学・プラスチック	658	△280	-	△126	241	-
流通・小売り・卸売り	2,934	1,556	△47.0	1,184	7,296	516.4
運輸・通信	838	1,289	53.8	925	3,730	303.3
不動産・企業向けサービス	2,762	1,198	△56.6	1,219	1,485	21.8
ホテル・レストラン	322	571	77.4	99	115	16.7
農業・牧畜業・林業・漁業	597	375	△37.3	399	147	△63.1
鉱業	2	△121	-	8,328	499	△94.0
合計(その他含む)	19,099	26,418	38.3	18,443	30,264	64.1

[出所] スペイン経済・産業・競争力省

付け(TOB)を実施し、2016年7月に保有比率を61.1%まで引き上げ、過半数株主となった。

### ■域外へのインフラ、エネルギー投資が相次ぐ

スペイン経済・産業・競争力省によると、対外直接投資は、前年比64.1%増の302億6,400万ユーロと好況期の2008年の水準に回復した。業種別では、金融再編を背景に商業銀行のカイシャバンクが2016年4月および2017年1月にポルトガル投資銀行(BPI)に対するTOBを相次いで実施し、保有比率を84.5%まで引き上げて実質的な

表 6 スペインの主な対内直接投資事例(2016年1月~2017年4月)

<M&A>

業種	被買収企業(事業)		買収企業		時期	投資額	概要
	企業名	企業名	国籍				
ヘルスケア	IDC サルード・ホールディング	フレゼニウス・ヘリオス	ドイツ		2017年1月	57億6,000万ユーロ	欧州第4の規模のスペイン民間病院運営最大手をドイツのヘルスケア大手が買収完了。
再生可能エネルギー	ガメサ	シーメンス・ウインドパワー	ドイツ		2017年4月	非公表	ガメサとシーメンスが風力発電事業で経営統合。スペインに置かれた合併後の本社(持ち株会社)にシーメンスの出資分59%(50億ユーロ超)を移管。洋上風力発電設備事業の本部はドイツとデンマークに。
エネルギー	ガスナトゥラルSDG	グローバル・インフラストラクチャー・パートナーズ(GIP)	米国		2016年9月	38億ユーロ	インフラ投資会社GIPがスペインのレブソルとクリテリア・カイシャから、ガスナトゥラルSDGの株式の20%を取得することを発表。
環境サービス	ウルバセル	フィリオン・インベストメント	中国		2016年12月	11億6,400万ユーロ~13億9,900万ユーロ	廃棄物発電の中国天楹が本買収のための特別目的コンソーシアム、フィリオン・インベストメントを通じて、インフラ建設大手ACS傘下の環境サービス事業部門ウルバセルの買収を完了。
再生可能エネルギー	アクシオナ・ウインドパワー	ノルデックス	ドイツ		2016年4月	7億8,500万ユーロ	アクシオナが風力発電設備事業をドイツの同業ノルデックスに売却。同時に、同社の株式29.9%の譲渡を受け株主となる形で合併統合。
インフラ建設	FCC	インベルソナ・カルソ	メキシコ		2016年7月	非公表	メキシコの投資家カルロス・スリム氏、FCCへのTOBで保有株式を61.1%に引き上げ。
自動車部品	ゲスタンプ・アウトモーション	三井物産	日本		2016年9月	4億1,600万ユーロ	自動車部品プレス世界最大手ゲスタンプに12.525%出資することに合意。

[出所] 各社発表および報道などから作成

表 7 スペインの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ユーロ、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2015年		2016年		2015年		2016年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
医薬品	447	317	13.2	△28.9	1,101	1,242	34.1	12.8
豚肉	228	289	12.0	26.8	188	254	7.0	34.6
自動車部品	220	234	9.7	6.1	90	103	2.8	14.3
乗用車	75	163	6.8	116.9	92	96	2.6	4.4
灰および残留物	136	141	5.9	3.8	65	71	2.0	9.6
オリーブ油	106	116	4.8	9.1	8	66	1.8	689.4
ワイン	81	79	3.3	△1.7	54	60	1.6	10.7
複素環式化合物	36	48	2.0	33.4	27	60	1.6	119.8
婦人用衣類	44	45	1.9	1.0	51	57	1.6	10.3
食用のくず肉(豚)	33	43	1.8	27.8	41	56	1.6	39.1
合計(その他含む)	2,470	2,406	100.0	△2.6	3,221	3,639	100.0	13.0

[出所] スペイン税関

経営権を掌握、イベリア半島最大の金融機関となった。一方、BBVA銀行は2017年3月にトルコの傘下ガランティ銀行の株式9.95%を8億5,900万ユーロで買い増しし、保有比率を49.85%へ引き上げた。規制強化の中でも収益確保を目的とした成長市場への投資は続く。インフラ分野では、大規模なインフラ投資を予定するオーストラリアへの進出が活発にみられ、2016年5月に建設大手フェロビアルが同業ブロードスペクトラムの株式の92.05%を取得したほか、2017年3月にはアクシオナが同業ジオテックの株式82.4%を取得した。

国・地域別では、EU向けが前年比4倍と急増し、全体の56.8%を占めた。最大の投資先である英国は、米国のコココーラ系列ボトラー合併案件により前年比2.3倍となった。続く米国はインフラ建設、医薬分野での買収が活発となり、前年の引き揚げ超過からリーマン・ショック前の2008年並に回復した。インフラ分野では、建設大手フェロビアルが2016年4月にインフラ建設のペッパー・ローソ

ン・コンストラクションを子会社経由で買収、建設のOHLも同年10月に傘下のジャドロー・コントラクティングを完全子会社化した。医薬分野では血液製剤大手グリフォルスが2016年12月に診断機器製造ホロジックの核酸検査(NAT)事業を18億5,000万ドルで買収すると発表。

対中南米では、成長有望市場であるエネルギーやインフラ分野での投資が活発であった。スペイン送電管理会社(REE)は2016年1月にチリの同業トランスミソラ・エレクトリカ・デル・ノルテの株式50%を取得、また2017年1月にペルー同業レデスルを100%子会社化するなど海外進出を加速。フェロビアルも2016年9月にチリの送電会社トレンスチレ・チャルーア・トランスミシオンの買収を発表、初めて送電事業に参入する。

### ■ 豚肉、オリーブ油の対日輸出が大幅増

対日貿易は、輸出が前年比2.6%減の24億600万ユーロ、輸入が13.0%増の36億3,900万ユーロとなり、対日

赤字は 64.2%増の 12 億 3,300 万ユーロと再び拡大傾向にある。

対日輸出の減少は、最大品目で前年に急増した医薬品が 28.9%の反動減となったことによる。乗用車はメルセデス・ベンツのミニバンモデル「V クラス」の輸出が好調で、2.2 倍となった。食料品も好調であった。品目別 2 位の豚肉は、2014 年初旬のロシアによる EU 産豚肉輸入制限措置以降、アジアに輸出がシフトされ、日本向けも白豚とイベリコ豚の両方で輸出が急増、同措置以前の 2.5 倍相当の 10 万トン弱に達した。スペインは日本にとって 4 位の豚肉供給国である。

日本からの輸入は、乗用車や自動車・航空機部品の好調で前年を上回る伸び率であった。最大品目で輸入全体の 3 分の 1 を占める乗用車は 12.8%増となった。日本からの乗用車輸入の半分近くをディーゼル車が占めるが、ディーゼル車の排ガス規制などを背景にガソリン車の輸入が 63.5%と急増した。

### ■双方向で自動車部品関連の投資が活発

日本からのスペイン向け投資は、金融部門で大型投資案件(非公表)があったことにより、スペイン経済・産業・競争力省によると、前年比 22.4%増の 4 億 7,400 万ユーロと前年に続き統計調査開始(1993 年)以来最高となった。公表されている最大案件は、2016 年 9 月の三井物産による自動車プレス部品世界最大手のゲスタンプ・アウトモシオンへの出資参画であった。また同年 5 月にハイレックスコーポレーションがドア窓開閉装置メーカーの CSA ウィンドウレギュレーターを買収・子会社化するなど、欧州自動車関連メーカーに対する世界規模での参入拡大を目的とする投資が相次いだ。非製造業では、三井住友海上火災保険が 2016 年 8 月、保険大手マフレの株式 0.1%を取得。両社の第三国連携は、当初はそれぞれがアジア地域と中南米地域に持つネットワークの相互活用を目的とした包括提携関係であったが、現在では世界規模に広がっている。VT ホールディングスは同年 10 月、海外売上比率を高めるべく自動車ディーラーグループの持株会社マスター・アウトモシオンの株式を取得し、子会社化した。

スペインからの対日投資は、2016 年は届け出が無かったが、日本銀行の統計によると 37 億円となっている。引き続き太陽光発電企業によるメガソーラー建設が盛況で、建設大手 ACS 傘下のマエテルは同年 7 月に日本に進出しているスペイン再生可能エネルギー開発エクセリオなどが開発する 2 件のプロジェクトの EPC(設計・調達・施工)サービスおよび運用保守を受注した。

またゲスタンプは 2017 年 2 月、三重県に初期投資額 3,700 万ユーロ(拡張のための二次投資との合計最大

6,500 万ユーロ)を投じて日本初の生産拠点を置くこと発表した。現地生産で日系メーカーへのホットスタンプ材の売り込みを強化する。イベリア航空は 2016 年 10 月にマドリッド・成田線の直行便を 18 年ぶりに再開した。同社は日本と中南米を結ぶハブとなることも目指している。